2026年12月期 第2四半期決算説明資料
窪田製薬ホールディングス株式会社 （東証グロース4596）

2026年8月18日

会社概要

名称	窪田製薬ホールディングス株式会社
設立	2015年12月
資本金	33百万円
本社所在地	〒107-0062　東京都港区南青山一丁目15番37号
代表者	代表取締役会長、社長兼最高経営責任者(CEO)　窪田 良　眼科医、医学博士
グループ会社	Kubota Vision Inc.（出資比率：100%、完全子会社） 所在地：アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市、スプリングストリート107
市場情報	東京証券取引所グロース市場（証券コード4596）
事業内容	医療用医薬品と医療機器の開発・販売
パイプライン	低分子化合物 ・エミクススタト塩酸塩 （対象疾患：スターガルト病、増殖糖尿病網膜症） ・VAP-1阻害剤（対象疾患：アルツハイマー病、代謝機能障害関連脂肪肝炎） 医療機器等 ・在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®（対象疾患：ウェット型加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫） ・超小型眼科診断装置 SS-OCT（対象疾患：宇宙飛行関連神経眼症候群）
販売製品	ウェアラブル近視進行ケアデバイス（対象疾患：近視）Kubota Glass®
業務提携	アメリカ航空宇宙局（NASA）、ハーバード大学医学部附属ジョスリン糖尿病センター、 シンガポール国立大学保健機構（シンガポール国立病院）、中国医薬大学、他
知的財産権	特許権：137件（医薬品59件、医療機器78件）2025年12月時点

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

取締役会

代表取締役

窪田 良　眼科医、医学博士
窪田製薬ホールディングス株式会社　会長兼社長、最高経営責任者
Director of the Board, Chairman, President, and Chief Executive Officer at Kubota Vision Inc.
NASAディープスペースミッション HRP研究代表者

取締役 （非業務執行）

中川 祐輝
窪田製薬ホールディングス株式会社　社外取締役 監査等委員
クリアデラ株式会社　代表取締役
イメージ情報開発株式会社　取締役副社長経営管理部長

取締役 （非業務執行）

藤原 正明
窪田製薬ホールディングス株式会社　社外取締役 監査等委員
株式会社バイカ・セラピュティクス　取締役
東京大学大学院農学生命科学研究科 One Earth Guardians 育成機構 非常勤講師
一般社団法人One Earth Guardiansオフィス 理事
株式会社キャストバイオ　代表取締役

取締役 （非業務執行）

澁谷 太志
窪田製薬ホールディングス株式会社　社外取締役 監査等委員
渋谷キャピタルグループ株式会社　代表取締役
株式会社リムライン　取締役

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

CEO略歴

FINDING CURE FOR BLINDNESS

窪田製薬ホールディングス株式会社　代表取締役会長兼社長、最高経営責任者
Director of the Board, Chairman, President, and Chief Executive Officer at Kubota Vision Inc.

窪田 良
眼科医、医学博士

1991年　慶應義塾大学医学部卒業、医師免許取得
1995年　緑内障原因遺伝子「ミオシリン」の発見（1995年冬）
1996年　日本眼科学会専門医認定取得、虎の門病院勤務
1997年　緑内障原因遺伝子「ミオシリン」の論文発表、 須田賞（須田記念緑内障治療研究奨励基金）を受賞
1999年　慶應義塾大学医学部大学院修了博士号取得
2000年　ワシントン大学医学部構造生物学教室シニアフェロー
2001年　ワシントン大学医学部眼科学教室助教授
2002年　Acucela Inc.（現Kubota Vision Inc.) 設立、Board Director, Chairman, President, and CEO（現任）
2008年　ワシントン州日米協会理事
2012年　ケース・ウェスタン・リザーブ大学　フォーサイト・アドバイザリーメンバー
2013年　一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ アドバイザー
2014年　G1ベンチャー　アドバイザリー・ボード、全米アジア研究所理事、慶応義塾大学医学部客員教授
2015年　医学系大学産学連携ネットワーク協議会(medU-net)相談役
2016年　窪田製薬ホールディングス株式会社　取締役 代表執行役会長、社長兼最高経営責任者
2018年　NASAディープスペースミッション HRP研究代表者（現任）
2020年　FDA Orphan Products Clinical Trials Grants Programに採択
2023年　窪田製薬ホールディングス株式会社　代表取締役会長、社長兼最高経営責任者（現任）

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

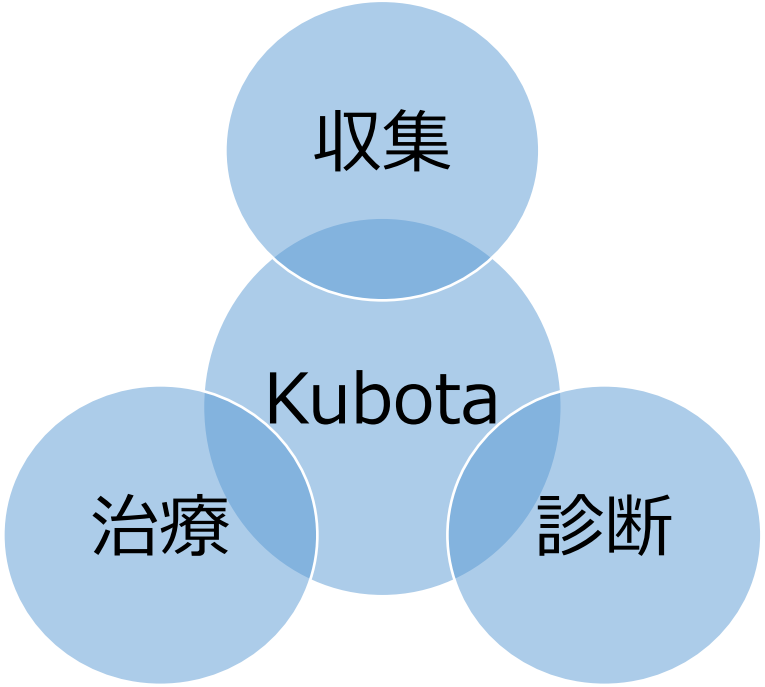
私たちの目指す世界

「世界から”失明”を無くす」
その揺るぎない決意が私たちの原点です。

当社は、創業当初より、「世界から失明を撲滅する」という目標に対し、医療のデジタル化を推進すべく、眼科領域に特化したバイオテック企業として、数々の革新的な治療薬・医療技術の開発に取り組んでまいりました。1日でも早く、眼疾患で不安を抱えておられる方々に、希望と安心、そして目が見える喜びと感動をお届けするべく、今後も確固たる信念のもとに日々研究開発及びマーケティングに精力的に取り組んでまいります。

Our mission

眼科医療のデジタル化を推進する



収集から活用までのエコシステムを構築

眼科領域のビッグデータカンパニーへ

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー

2026年中間期の主な経営実績

- 事業費用が主にエミクススタト塩酸塩の製造費用の増加により前年同期比215百万円増加。
- 手元資金は期首の1,919百万円から2026年6月末時点で1,580百万円となり、339百万円減少。
- ウェアラブル近視進行ケアデバイス Kubota Glass®について、日本では「Kubota Glass® My Visionプログラム」の利用者数が着実に増加。中国は現地薬事規制を踏まえ承認取得への対応を進めており、事業展開の時期を慎重に検討中（台湾も同様に慎重検討）。
- スターガルト病治療候補薬「エミクススタト塩酸塩」について、フランスのLaboratoires KÔL社と供給およびライセンス契約を2026年3月に締結（同年6月に補足覚書）。2026年7月には原薬製造に係る第1マイルストーンの対価を受領。

2026年度の展望

- Kubota Glass®の中国における将来的な事業展開・承認取得に向けた小児近視予防臨床試験の着実な実施（台湾は事業拡大の進め方を精査）。
- スターガルト病治療候補薬「エミクススタト塩酸塩 」について、主にフランスでの指定患者向けコンパッショネート・ユース・プログラムを利用した早期収益化を推進。

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

目次

1 事業内容

2 各パイプラインについて

- エミクススタト塩酸塩
- VAP-1阻害剤
- ウェアラブル近視進行ケアデバイス Kubota Glass®
- 在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®

3 2026年12月期 第2四半期連結実績

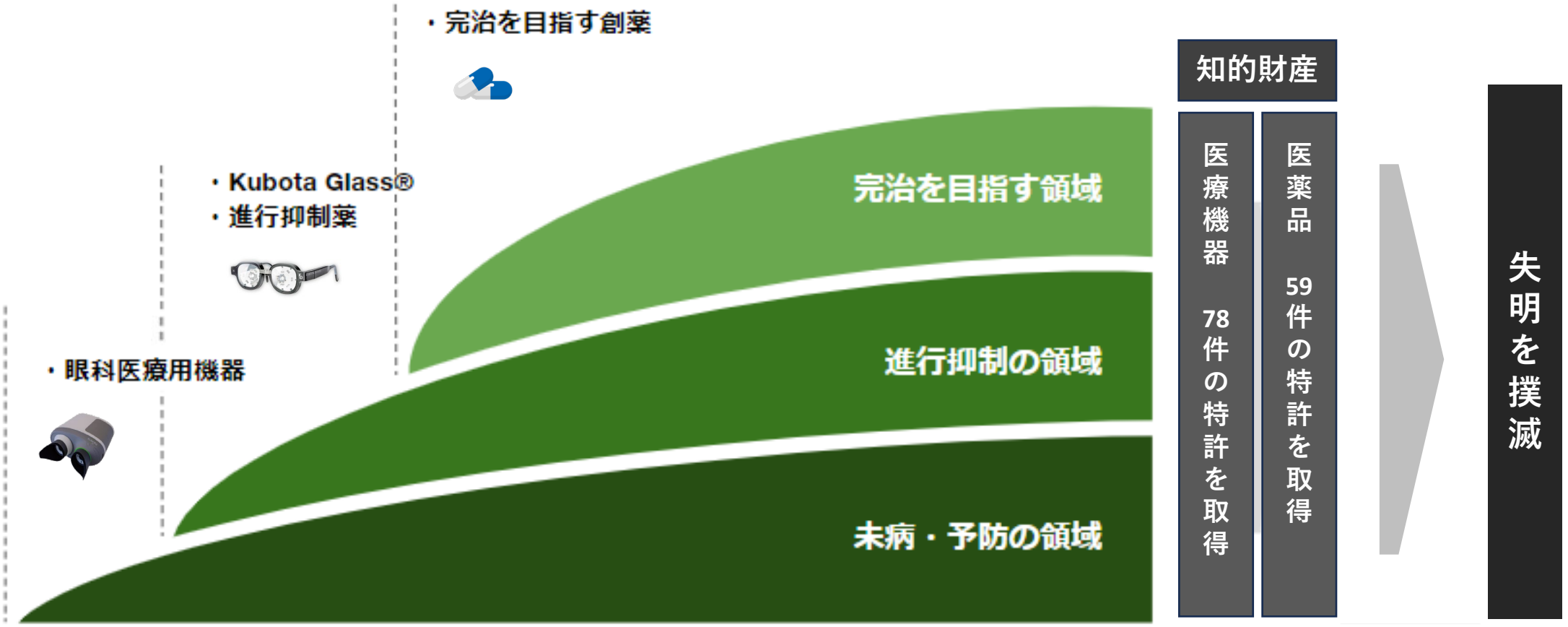
4 2026年12月期 業績予想

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

事業内容

ビジネスモデル

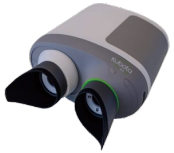
未病・予防の領域、進行抑制の領域、完治を目指す領域（創薬）の3領域に亘り、豊富な知的財産を活用し、医薬品と医療デバイスというリスク・リターン特性の異なる2つの事業ポートフォリオを組むことで、事業の効率化、事業リスクの分散と企業価値増大に取り組む



（注）2025年12月時点

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

研究開発パイプライン

デバイス	詳細	デザイン および プロトタイプ	臨床試験 および 製品開発	承認・認証 510(k)	support
在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®: Patient-Based Ophthalmology Suite 	超小型モバイルOCT (網膜、光干渉断層撮影機器)				
	NASA宇宙飛行士 モニタリングデバイス				NASA 有人火星探査 プロジェクト

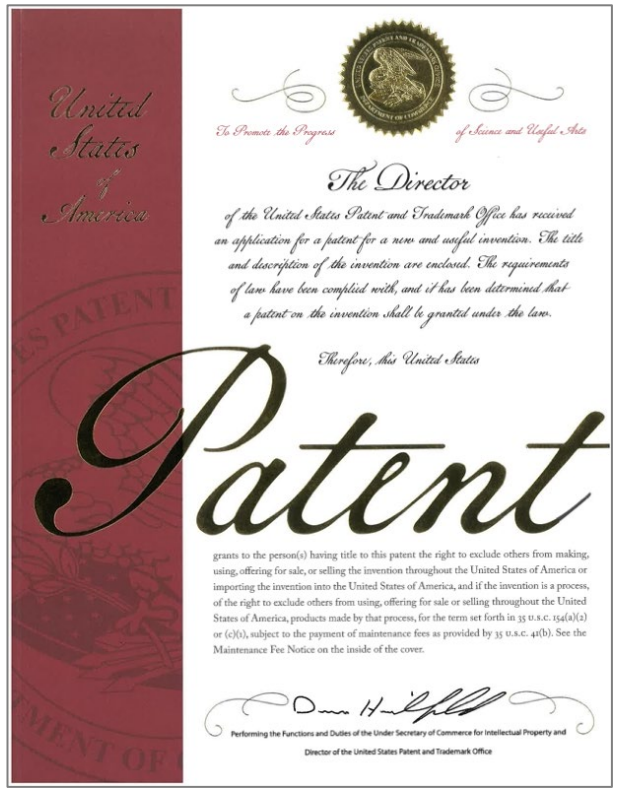
低分子化合物	適応症	前臨床	第１相	第２相	第３相	support
エミクススタト塩酸塩	スターガルト病					FDA
	増殖糖尿病網膜症					

遺伝子治療を含めた早期研究段階にある医薬品、医療機器プロジェクトについては、
当社グループのパイプラインチャートには掲載せず、適宜進展があり次第情報開示をいたします。

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

研究開発パイプライン特許戦略：
技術革新を支える強固な特許ポートフォリオの構築と維持

当社は創業以来、知的財産を重視した経営戦略を推進し技術の最大限の活用と企業価値の向上に取り組んでおり、特許戦略として、技術革新を支える強固な特許ポートフォリオの構築と維持を目的としております。
2025年12月末時点で、医薬品59件、医療機器等78件の特許を保有しており、主に以下に関する技術をもとに革新的な医薬品や医療技術の開発を推進しています。



視覚サイクルを調整して網膜疾患の進行を抑える医薬品（エミクススタト塩酸塩）：
視覚サイクルモジュレーション技術(VCM技術）に関する物質特許および用途特許を独占的に保有しています。この技術の主な効果は、ビタミンA代謝に関与するRPE65を抑制し、11-cis-レチナール量を低下させることで、視覚サイクル内の細胞毒性物質を減少させることです。さらに、一時的に暗所視状態を維持することで、網膜の代謝負荷を軽減し、視機能の保護が期待されています。

炎症性疾患および変性疾患に対するVAP-1阻害剤：
血管内皮に関与する酵素を標的とし、炎症反応や組織変性の進行を抑制する新しい作用機序の医薬品技術

近視の改善を目指す眼鏡型・コンタクト型デバイス技術（クボタメガネ・テクノロジー®）：
特殊な映像を網膜に投影することで近視の改善を目指す新しい視覚刺激技術で、メガネ型およびコンタクトレンズ型デバイスの光学設計に関する特許を保有

在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®：
VCSEL(垂直共振器面発光レーザー)を用いた低コストのOCT (光干渉断層計) 技術で、 VCSELの採用により、従来の大型・高価なOCT装置を超小型化し、在宅や遠隔医療向けの眼科診断機器の提供が可能

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

知的財産の外部評価：
日経ビジネス「特許価値成長力ランキング」で製薬業界第4位

当社の知的財産戦略は、外部機関からも高く評価されています。
日経ビジネス2025年6月2日号に掲載された「特許価値成長力ランキング」において、以下の評価を獲得しました。

総合ランキング

28位

全上場企業3,980社中

製薬業界内ランキング

4位

アステラス製薬・第一三共・武田薬品工業に次ぐ

製薬業界内トップ4： 1位 アステラス製薬 ／ 2位 第一三共 ／ 3位 武田薬品工業 ／ **4位 窪田製薬ホールディングス（当社）**

本ランキングは、米レクシスネクシス社の特許分析ツール「PatentSight+」を用いて算出されたもので、保有特許の過去2年間の価値成長度を、特許件数や他社特許からの引用状況等を踏まえて評価したものです。
単なる特許件数ではなく、特許ポートフォリオの質や成長性が評価された結果であり、眼科領域に特化した当社の研究開発および知的財産戦略の成果を示すものと考えております。

出所：日経ビジネス 2025年6月2日号（対象：全上場企業3,980社、製薬企業2,000社、主要上場70社）

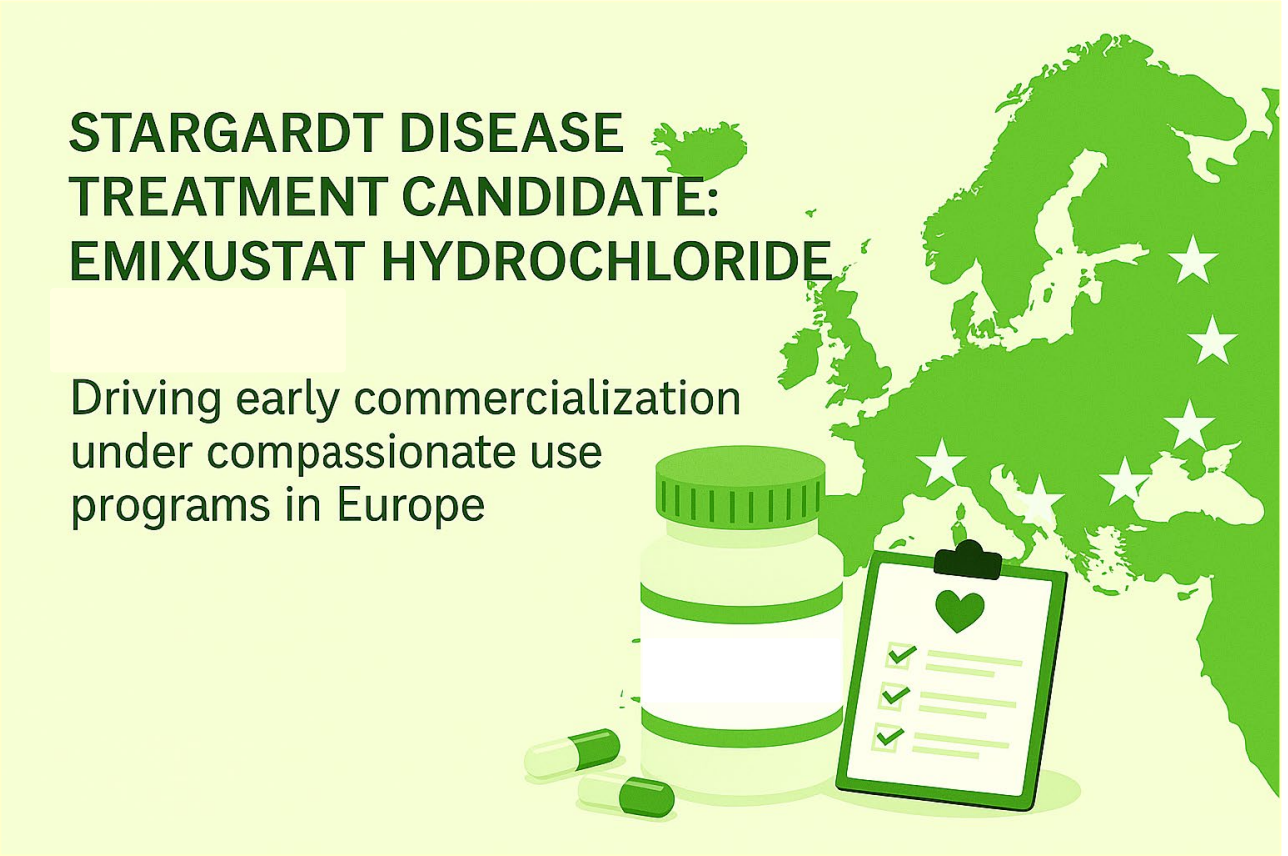
© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

エミクススタト塩酸塩

対象疾患：スターガルト病、増殖糖尿病網膜症

スターガルト病治療候補薬：エミクススタト塩酸塩
欧州におけるコンパッショネート・ユース・プログラムを利用した早期商業化の推進

- スターガルト病治療候補薬「エミクススタト塩酸塩 」の重要な商業化活動として、第3相臨床試験後に実施したサブグループ解析の結果に基づき、欧州等での指定患者向けコンパッショネート・ユース・プログラムによる早期商業化を推進中。
- 販売価格設定の自由度が比較的高いフランスでの先行的な開始を検討中。
- 中期的には、フランスで得た実績・ノウハウをふまえ、他国への展開も視野。
- 商業パートナーとして、Laboratoires KÔL（ 本社：フランス・クレルモン＝フェラン、Founder and CEO; Sophie Momège）との間で、「エミクススタト塩酸塩 」の供給およびライセンス契約を締結。（2026年3月2日付）
- 米国市場においては、引き続き１対２のピボタル試験要件の確認及び研究開発パートナーの探索を積極的に推進中。

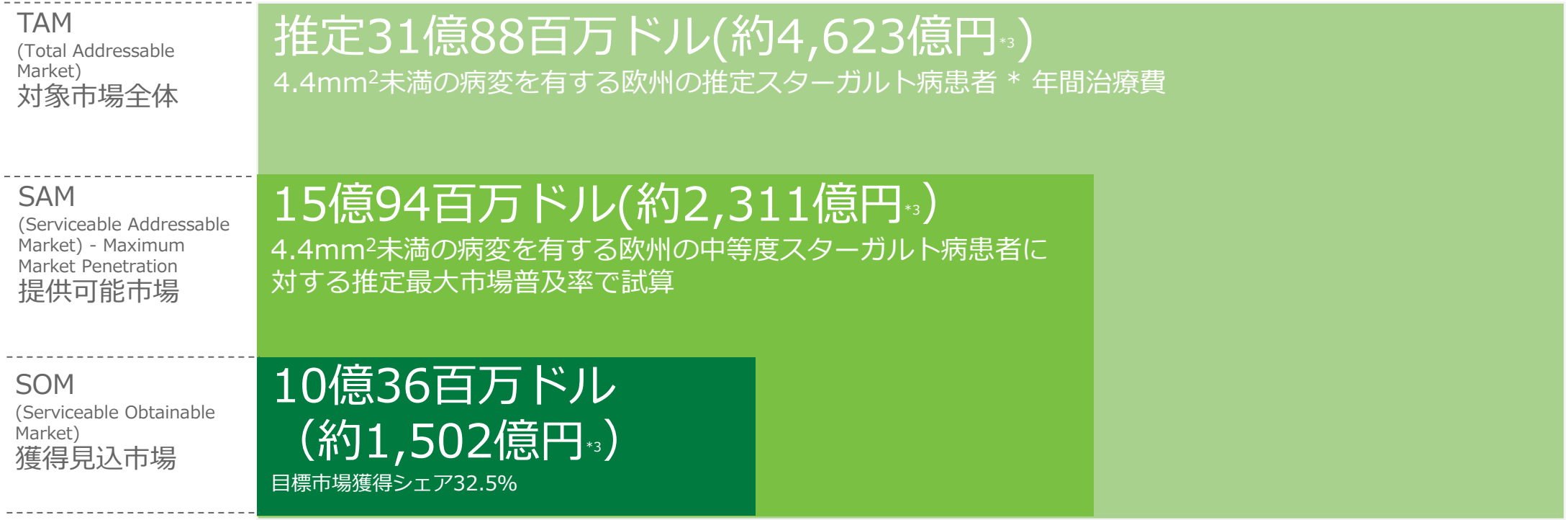


© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

スターガルト病治療候補薬：エミクススタト塩酸塩

欧州における市場規模

2023年時点でフランス、ドイツ、イタリア、スペイン、英国などの欧州地域がスターガルト病治療薬市場の45%近くを占めております。[*1]
当社は、欧州市場においてスターガルト病治療候補薬「エミクススタト塩酸塩」により、約10億36百万ドル（約1,502億円）の推定市場規模の獲得に向けて取り組んでいます。[*2]



*1 出所: Global Information, and Coherent Market Insights
*2 出所: Kubota Vision Inc. 独自調査
*3 1ドル145円で算出

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

VAP-1阻害剤

対象疾患：

アルツハイマー病

代謝機能障害関連脂肪肝炎 (MASH)

VAP-1阻害剤とは

VAP-1阻害剤（別名：セミカルバジド感受性アミン酸化酵素〈SSAO〉阻害剤）は、炎症性疾患の治療において有望な新しい薬剤クラスです。
当社グループは、ぶどう膜炎、糖尿病性黄斑浮腫、ドライアイ、術後の眼内炎症などの眼疾患に対する新規治療薬の研究開発活動中に、既存のVAP-1阻害剤と比較して非常に高い選択性と強力な作用を持つ複数の新規経口VAP-1阻害剤を発見しました。当初は眼の炎症性疾患への応用を主な目的としていましたが、現在ではアルツハイマー病などの神経炎症性疾患や、代謝機能障害関連脂肪肝炎(MASH) といった肝疾患など、アンメット・メディカル・ニーズの大きい適応症にも研究範囲を拡大しています。

また2020年12月7日、自社で発見したVAP-1阻害剤を、 アメリカ国立がん研究所(NCI)の開発治療プログラム（Developmental Therapeutics Program: DTP）に提出しました。これは、NCI-60ヒト腫瘍細胞株スクリーニングにて抗腫瘍活性を評価してもらうためであり、このプログラムでは、白血病、肺がん、大腸がん、乳がん、前立腺がん、脳腫瘍、腎がん、卵巣がん、皮膚がんなど9種類・60種類のヒト腫瘍細胞株を用いて評価が行われます。

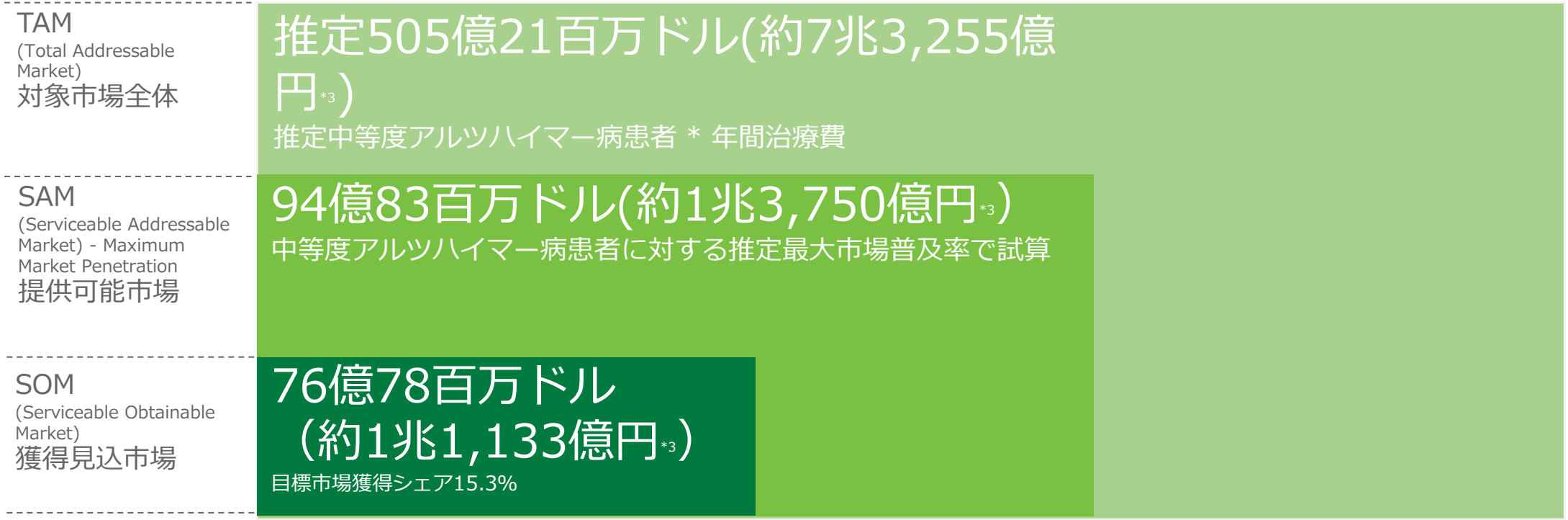
当社グループは現在、in vivo における Proof of Concept（POC）検証を目的とした疾患モデルの研究実施に向け、適切な提携先の選定を進めております。

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

アルツハイマー病治療候補薬：VAP-1阻害剤

主要展開国における市場規模

アルツハイマー病治療薬の市場は、2033年までに年平均成長率が米国で19.1%、EU 4カ国および英国で約8～9%、日本で10.25%と予測されています。[*1]
当社は、アルツハイマー病治療候補薬「VAP-1阻害剤」の米国、EU 4カ国（フランス、ドイツ、イタリア、スペイン）および英国、日本での上市を目指し、76億78百万ドル（約1兆1,133億円）の推定市場規模の獲得に向けて取り組んでいます。[*2]



[*1] 出所: Source: Grand View Research, Coherent Market Insights, Mordor Intelligence, TechSci Research
[*2] 出所: Kubota Vision Inc. 独自調査
[*3] 1ドル145円で算出

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

KUBOTA GLASS

Creating an optimal visual environment

対象疾患：近視

ウェアラブル近視進行ケアデバイス

ウェアラブル近視進行ケアデバイス Kubota Glass® : 第2四半期 事業進捗

【日本市場】

- 2026年4月より「Kubota Glass® My Visionプログラム」（サブスクリプション型販売）の提供を開始。顧客が長期にわたり継続利用できる環境を整備するとともに、利用者数は着実に増加しており、今後の収益基盤の底上げに寄与するものと期待している。
- 引き続き国内マーケティング活動を強化し、提供価値をより多様かつ継続的に届けることで、早期の収益立ち上げを図る方針。

【中国市場】

- 現地の医療機器に関する薬事規制の動向を踏まえ、当面は規制対応および承認取得を最優先とする方針のもと、商業面での事業展開の進め方について改めて精査を行っている。中国は近視関連製品における大市場であり、引き続き重要市場との位置付けに変わりはなく、規制動向を注視しながら適切なタイミングでの事業展開を進めていく。
- 上海における小児近視予防を目的とした臨床試験は継続中であり、現時点まで順調に進捗している。これらを通じ、製品の科学的エビデンスの増強と将来的な事業基盤整備を着実に推進している。

【台湾市場】

- 中国市場における薬事規制の状況を踏まえ、台湾においても事業拡大の進め方について慎重に検討を進めている。既存の契約済みパートナーとの関係を継続的に維持・強化しながら、販売ネットワークの構築に向けた取り組みを継続。

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

当社グループの事業開発および研究開発の進捗状況

Kubota Glass®臨床試験：上海市眼病防治センター

目的	未発症小児における近視発症予防効果を評価
実施施設	上海市眼病防治センター／上海市眼科医院
研究期間	2025年11月中旬より開始。観察期間：１年間、中間解析：３カ月、６カ月、９カ月時点、最終評価：12ヶ月時点
予定登録症例数	118例（目標症例数）
対象患者	年齢：6歳～9歳 屈折状態：近視未発症児（エメトロープまたは低度遠視）
研究デザイン	無作為化並行群間比較試験（Randomized Controlled Trial: RCT）/ 1:1の割付比による無作為割付 / 介入群：Kubota Glass装用群 / 対照群：非装用群
介入方法	介入群はKubota Glassを1日2時間以上装用 / 対照群は通常生活を継続し、特定の光学的介入は行わない
評価項目	主要評価項目：12か月時点における近視発症率 副次評価項目：球面等価屈折度数の変化量 / 眼軸長の変化量 / 各中間解析時点における発症率比較
研究の位置づけ	近視未発症小児を対象とした一次予防（Primary Prevention）を検証する前向き無作為化比較試験
本臨床試験責任者	上海市児童近視センター専任理事　何鮮桂（He Xiangui）博士

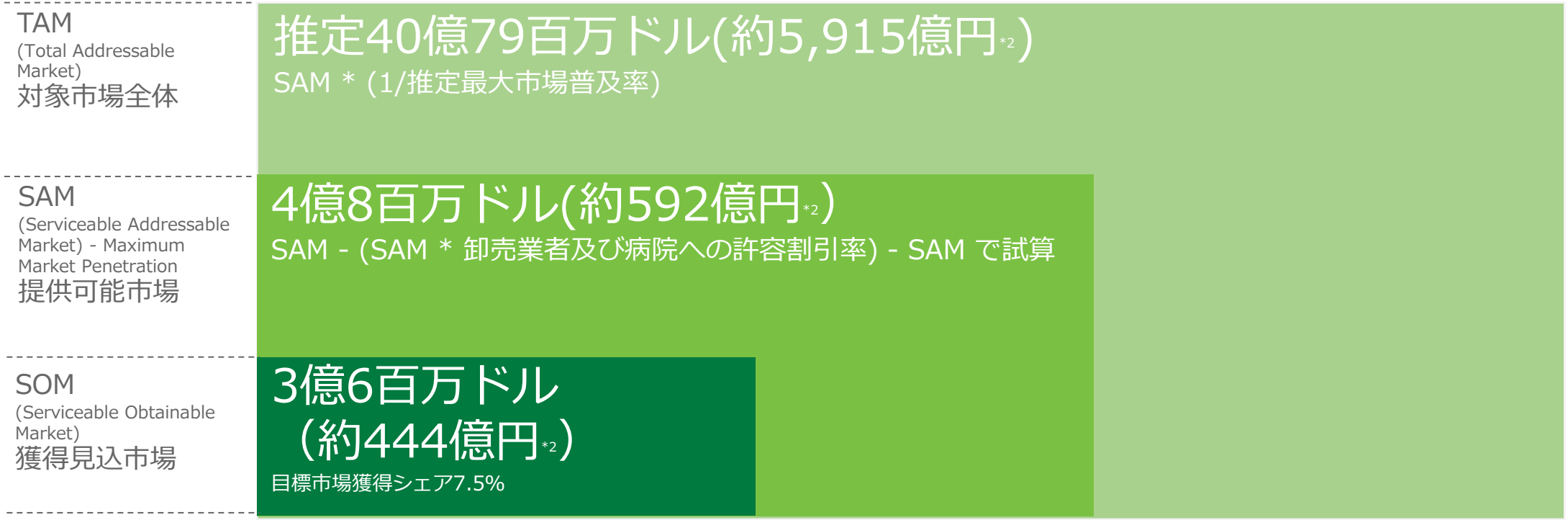
© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®

eyeMO®（対象疾患：ウェット型加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫）
SS-OCT（対象疾患：宇宙飛行関連神経眼症候群）

在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®
（加齢黄斑変性及び糖尿病黄斑浮腫）：主要展開国における市場規模

加齢黄斑変性及び糖尿病黄斑浮腫薬の市場は、2030年までに年平均成長率が世界全体で約30%と急成長が予測されています。*1
当社は、加齢黄斑変性及び糖尿病黄斑浮腫薬を対象とした「遠隔医療眼科網膜モニタリング機器 eyeMo®」の米国、欧州、日本での上市を目指し、3億6百万ドル（約444億円）の推定市場規模の獲得に向けて取り組んでいます。*1



*1 出所: Kubota Vision Inc. 独自調査
*2 1ドル145円で算出

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMO®：
ハーバード大学医学部付属ジョスリン糖尿病センターおよびシンガポール国立病院との共同研究

・2023年以降、複数の医療・研究機関と在宅･遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器(eyeMO®)の共同研究を実施中。
・今後は共同開発による実用モデルの検証を継続するとともに、パートナー企業の発掘と商業化を模索。

2023年1月～

Joslin Diabetes Center

ハーバード大学医学部付属ジョスリン糖尿病センターとのeyeMO®及びOCTに関する物質移転および共同研究契約

本研究は、完全子会社であるKubota Vision Incを通じて米国のハーバード大学医学部附属ジョスリン糖尿病センターテレメディシン部門の共同責任者であるパオロ・S・シルバ博士が主導し、eyeMO®の糖尿病黄斑浮腫の症例の検出能力の実用性評価と市販OCTとの比較試験の2つの臨床研究を実施しています。

ステータス：
・フェーズ1 被験者募集完了
・フェーズ2 臨床試験実施中

ハーバード大学医学部附属ジョスリン糖尿病センター:
世界最古で世界最大の糖尿病センターで、ハーバード大学医学大学院と提携しています。

2023年8月～

National University Hospital

シンガポール国立病院(NUH)とのeyeMO®に関する共同研究契約

本研究は、完全子会社であるKubota Vision Incを通じて、シンガポール国立病院(NUH)眼科部門ヘッドのヴィクター・コフ准教授が主導し、NUHでの慢性眼疾患のモニタリングに適した革新的でアクセスしやすい眼科ケアモデルを開発を目指しています 。

ステータス：
・フェーズ1 被験者募集完了
・フェーズ2 臨床試験実施中

シンガポール国立病院(NUH):
シンガポール保健省(MoH)傘下の公的ヘルスクラスターMOHホールディングス(MOHH)の医療機関グループであるシンガポール国立大学保健機構 (NUHS)内の最大規模の総合病院です。

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

2026年12月期 第2四半期連結実績

連結損益計算書 (IFRS)　前年同期比較

増減の主な要因
- 事業収益：ウェアラブル近視進行ケアデバイス Kubota Glass®のサブスクリプション型販売の導入に伴う収益認識の変更影響
- 事業費用：
  【研究開発費】主にエミクススタト塩酸塩に係る製造費用の増加
  【販売費及び一般管理費】人件費の減少、株式報酬費用および特許関連費用の増加

単位：百万円	FY2025 中間期	FY2026 中間期	増減額	増減率
事業収益	13	8	△5	△39.8%
事業費用	431	646	+215	+49.9%
売上原価	5	22	+17	+376.5%
研究開発費	144	313	+170	+118.2%
販売費及び一般管理費	283	311	+28	+9.9%
営業利益	△450	△650	-	-
親会社所有者に帰属する当期利益	△450	△649	-	-
当期包括利益合計額	△450	△653	-	-

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

連結損益計算書 (IFRS)　四半期比較

・第2四半期の事業収益は、第1四半期比および前年同期比で減収
・開発費および販売費及び一般管理費の増加を主因として、営業利益は前年同期比で減少

前年同期比

直前四半期比

単位：百万円	FY2025 Q2	FY2025 Q3	FY2025 Q4	FY2026 Q1	FY2026 Q2	直前四半期比	前年同期比
事業収益	6	5	3	5	3	△36.1%	△45.8%
事業費用	191	205	243	307	339	+10.4%	+77.2%
売上原価	4	1	19	2	20	-	-
研究開発費	73	97	72	139	174	+24.8%	+139.8%
販売費及び一般管理費	115	107	153	166	145	△13.0%	+25.3%
営業利益	△191	△204	△241	△313	△337	-	-
その他の収益及び費用	△0	218	△0	1	△0	-	-
四半期利益	△191	15	△241	△312	△337	-	-

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

連結財政状態計算書（IFRS） 前年期末比

増減の主な要因

- 資産 ：【流動資産】現金及び現金同等物の減少　【非流動資産】大きな変動なし
- 負債 ：【流動負債】未払債務の増加　【非流動資産】大きな変動なし
- 資本 ： 当期純損失の計上による利益剰余金の減少 / 新株発行による資本金・資本準備金の増加

単位：百万円	FY2025 Q4	FY2026 Q2	増減額	増減率
流動資産	1,969	1,766	△203	△10.3%
現金および現金同等物、その他の金融資産	1,919	1,580	△339	△17.7%
非流動資産	10	10	△0	△0.2%
その他の金融資産	-	-	-	-
資産合計	1,979	1,776	△203	△10.3%
流動負債	157	173	+16	+10.1%
非流動負債	8	1	△8	△92.4%
資本合計	1,814	1,602	△211	△11.7%
負債および資本合計	1,979	1,776	△203	△10.3%
手元資金 （現金および現金同等物、その他の金融の合計）	1,919	1,580	△339	△17.7%
自己資本比率（%）	91.6%	90.2%	-	△1.4pts

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

2026年12月期 業績予想

2026年12月期 業績予想

単位：百万円	事業収益	営業利益	税引前利益	当期利益	現金および現金同等物
2026年度：予想	-	-	-	-	-
2025年度：実績	21	△895	△676	△676	1,919

今後の事業の進捗を踏まえ、開示に資する合理的な算出が可能になり次第、速やかに開示予定

既に商業化されているウェアラブル近視進行ケアデバイス Kubota Glass®の海外からの売上の立ち上がりがずれ込んでおり、営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスが継続していることから、現金及び現金同等物の残高は2026年12月期中間連結会計期間末が1,580百万円、2025年12月期末が1,919百万円、2024年12月期末が1,455百万円となっており、2023年12月期末の2,768百万円、2022年12月期末の4,049百万円から減少しております。
これらのことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると認識しております。

このような状況を鑑み、当社グループは以下のような施策の実行に向けて取り組んでおります。

1. 日本国内における Kubota Glass®のサブスクリプション型販売プログラム「Kubota Glass® My Vision プログラム」の更なる普及拡大
2. Kubota Glass®の中国における将来的な事業展開及び承認取得に向けた小児近視予防を目的とした臨床試験の着実な実施
3. Kubota Glass®の台湾における事業拡大の進め方の精査及び契約済みパートナーとの関係維持を通じた販売ネットワーク構築に向けた取り組みの継続
4. Kubota Glass®の生産体制合理化による品質改善と製造原価低減
5. エミクススタト塩酸塩の主にフランスでの指定患者向けコンパッショネート・ユース・プログラムを利用した早期収益化
6. 財務基盤の強化に向けた多様な資金調達施策の検討及び実行

以上の施策により、事業収入増加、コストの削減並びに資金調達の可能性を高めることで継続企業の前提に対する疑義の解消に努めてまいります。
各施策の成果については不確実性が存在するものの、当中間連結会計期間末現在において、現金及び現金同等物1,580百万円を保有しており、当面の事業活動継続に必要な資金を十分に確保していることから、当社グループは継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

支出に関しては、生産体制の維持と合理化、製品の改良、製造コスト削減、科学的エビデンスの増強、といった活動を同時並行で進めております関係上、研究開発費用が大幅に変動する可能性を否めません。
収益に関しては、Kubota Glass®が非常に新規性の高い製品であることから、現時点で正確な需要予測をおこなうことが困難です。

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。また本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。

本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定（一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません）に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。

リスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

お問い合わせ先
広報・IR 担当
（代表） 03-6550-8928

© Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

Kubota

FINDING CURE FOR BLINDNESS